

Moodle による初修言語 CALL について(3)

大浜 博・松尾博史・田中雅敏

松 山 大 学
言語文化研究 第28巻第2号 (抜刷)
2009年3月

Matsuyama University
Studies in Language and Literature
Vol. 28 No. 2 March 2009

Moodle による初修言語 CALL について(3)

大浜 博・松尾博史・田中雅敏

1. はじめに

松山大学教育研究助成を受け、オープンソースの CMS ソフトウェア Moodle によって構築したサイト「松山大学 Moodle」¹⁾における初修言語 CALL は 2008 年度、3 年目を迎えることになった。小論では、ドイツ語、フランス語の CALL の 3 年目の展開を報告する。

今年度も Moodle の運用に関しては、(株)eラーニング・サービス²⁾の提供するレンタルサーバを利用し、Moodle の保守管理も同社に依頼し、筆者たちにもっぱらコンテンツの制作と学生の指導を行った。年度中に一度、Moodle のバージョンアップを行い、2009 年 3 月現在の動作環境は、Moodle 1.9.2, MySQL 5.0.68, PHP 5.1.6, Apache 2.0 である。

2007 年度から 08 年度にかけてコースのクローズと立ち上げを経験していたため、今年度のコース立ち上げに際しては、特に問題は生じなかった。履修者のログイン名は統一し、複数のコースに登録しているかどうかをチェックしたうえで、パスワードを発行したため、ユーザ登録上の問題³⁾も生じなかった。

1) <http://e-learning-language.net/>

2) <http://www.e-learning-service.co.jp/index.html>

3) ユーザ登録の問題については、大浜博・松尾博史「Moodle による初修言語 CALL について(2)」松山大学『言語文化研究』27-2, 2008 年, 1-2 頁を参照。

2. ドイツ語コース

2.1 コース編成

昨年度までの4コースに、今年度1コースを増設し、ドイツ語は5コースとなった。

Moodle コース名	性 格	授業科目名	開講期/週	グループ
Dialog Ver. 4	基礎ドイツ語	愛媛大学ドイツ語1/2	前/後2	なし
Dialog ステップアップ	2年次以降のドイツ語	ドイツ語ステップアップ	前1	Su 2
		ドイツ語3/4	前/後2	D 34
ドイツ語コミュニケーション2/4*	海外研修事前・事後講座	ドイツ語コミュニケーションⅡ/Ⅳ	前/後1	なし
独検4級対策	独検4級	ドイツ語キャリアアップⅠ	前1	なし
		ドイツ語プロフィシェンシⅠ	前1	
ドイツ語キャリアアップⅡ・Ⅲ ドイツ語プロフィシェンシⅡ	独検3級	ドイツ語キャリアアップⅡ/Ⅲ	前/後1	なし
		ドイツ語プロフィシェンシⅡ	通年1	

表1 ドイツ語コースと授業科目、グループ分け。*は2008年度新設コース。

ただし5コースのうち独検3級対策のために設けている「ドイツ語キャリアアップⅡ・Ⅲ/ドイツ語プロフィシェンシⅡ」コースは、Moodleサイトの運営に関わっている田中、松尾の両名とも担当科目から外れていたため、開店休業の状態だった。基礎ドイツ語のための「Dialog Ver. 4」コースおよび2年次以降用の「Dialog ステップアップ」コースについては、昨年同様のコース設計、運用を行った。従って、以下では今年度新設した「ドイツ語コミュニケーション2/4」コースと、新たに共同研究者に加わった田中が担当した「独検4級対策」コースについて詳述する。

2.2 ドイツ語コミュニケーション

2.2.1 コース設計の目的

CALL の教材としてまずイメージされるのは、Moodle では「小テスト」として提供されているコンテンツだろう。「松山大学 Moodle」のドイツ語 CALL でも、導入時にまず作成したのは、自習用教材として的小テストだった。ドイツ語技能検定やドイツ語の初級においては、文法の反復練習のためのドリルに用いることによって、小テストは授業の補完として有効に機能する。しかし、CALL で提供可能な教材は、小テストに留まらない。Moodle 自体が、社会的構成主義に基づいて設計されており、「フォーラム」、「Wiki」、「ワークショップ」など多様な「活動」を提供している⁴⁾。「松山大学 Moodle」のドイツ語 CALL では、昨年度から一部のコースで「小テスト」と並び「フォーラム」や「Wiki」を利用し、学習者の能動的・協働的な学習を促進しようとしてきた。2008 年度は「小テスト」中心ではないコースを新設した。それが、「ドイツ語コミュニケーション 2/4」コースである。このコースで目指したのは、以下のようなことである。

1. 教員だけではなく、学生がコンテンツを作成する
2. 教員はそれをサポートする（例示，添削，評価）
3. 相互参照による協働的学習
4. 学生の相互評価
5. 情報の蓄積，共有

2.2.2 対面授業と CALL

「ドイツ語コミュニケーション 2/4」コースの内容に入るまえに、このコースを導入したクラスについて説明しておこう。コース名と同名の「ドイツ語コ

4) 社会的構成主義および行動中心主義と CALL については、境一三「豊かな学びの場としての LMS」、吉田晴世・松田憲・上村隆一・野澤和典編著『ICT を活用した外国語教育』東京電機大学出版局、2008 年、139-157 頁を参照。

コミュニケーションⅡ」は前期、「同Ⅳ」は後期に開講しているそれぞれ週1回90分2単位の言語文化上級科目である。前期科目の「ドイツ語コミュニケーションⅡ」はシラバス上では、授業のサブタイトルが「ドイツ旅行・ドイツ語学研修・ドイツ留学準備講座」とされており、また授業のテーマと目的として次のように記されている。

フライブルク大学での夏期ドイツ語研修、ドイツ語圏での短期語学研修を目指す人、計画している人たちのための準備講座です。(中略) 今まで学んできたドイツ語を復習しながら、ドイツでの国際的な語学コースで使えるドイツ語を学びます。また、ドイツの街角を想定して、現地で使えるドイツ語の表現を練習します。メニューの読み方から、レストランでの注文、支払いのやり方。ホテルの予約、ドイツ鉄道の利用法など、海外語学研修や旅行が楽になる情報と会話の仕方を学びましょう。また、インターネット上の情報や雑誌書籍によって、自分で現地情報を集め、海外研修での自分なりのテーマ作成に取り組みます。

今年度でなくとも、いつかドイツに行ってみたい、ドイツに旅行してみたいという方、ドイツ語の会話を習いたいという方も歓迎です。

即ち、この授業は松山大学が行っているフライブルク大学における夏期ドイツ語研修と、語学研修助成制度によってドイツ語圏でドイツ語研修を受ける学生の事前・事後講座として位置づけられている。ただし、それ以外の学生も履修可能である。2008年前期においては、受講生20人中12人が夏期研修(フライブルク大学・助成制度)に参加予定であった。

対面授業は、前期15回が行われた。毎回のテーマは、自己紹介、授業で使うドイツ語表現、フライブルクと松山、レストランでの注文と支払い、食料品(スーパー)とレシピ、ドイツ鉄道、ホテル・ユースの予約・利用、ツーリスト・インフォメーション、銀行と両替、病気、郵便と小包、買い物(衣料品)、

トピックアウトライン	
<ul style="list-style-type: none"> ■ ニュースフォーラム ■ 質問フォーラム なんでも分からなかったら、このフォーラムで質問してください ■ フライブルク情報1ーフライブルク大学夏期講習SUJ ■ フライブルク情報2ーフライブルク駐在員レポート ■ 松山市のドイツ語サイト ■ 松山市フライブルク市交換留学生のブログ 	
1 自己紹介	<input type="checkbox"/>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 自己紹介 Selbstvorstellung と相互評価 ■ Selbstvorstellung 自己紹介 	
2 クラスルームでよく使われるドイツ語表現のWikiをみんなで作りましょう。	<input type="checkbox"/>
<ul style="list-style-type: none"> ■ Deutsch in der Klasse 	
3 松山とフライブルクに関するクイズです。教室で配った資料のデータも、最新の情報に照らして修正しています。	<input type="checkbox"/>
<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Matsuyama und Freiburg 	
4 レストランでの注文をシミュレートしてみましょう。 4 Juni: やつと皆さんの投稿にコメントを付けた終わりました。コメントを参考に、書き直してみてください。 2回目の投稿を見て、相互評価をお願いします。いい注文だと思ったら、10点。 「これはまずいんでないの？」という場合で8点でおわかしします。 ■ im Bierlokal	<input type="checkbox"/>
5 Kartoffelpfannkuchen	<input type="checkbox"/>
6 Deutsche Bahn の ■さんの投稿へのコメントで、具体的に、ドイツ鉄道の時刻表の検索のやり方を記入しています。参考にしてください。[26 Juni 2006] ■ Deutsche Bahn <input checked="" type="checkbox"/> Baden-Württemberg-Ticket	<input type="checkbox"/>
7 ■ die Stadt, die ich besuche	<input type="checkbox"/>

図1 「ドイツ語コミュニケーション2/4」コースの2008年度前期トピック

意見を言う、約束と提案、等であった。

Moodle のコースでは、上記の授業テーマのうち、自己紹介、授業で使うドイツ語表現、フライブルクと松山、レストランでの注文と支払い、食料品（スーパー）とレシピ、ドイツ鉄道、ホテル・ユースの予約・利用を取り上げ、授業と連動する形で、「テキスト・ページ」「フォーラム」「Wiki」「小テスト」等のリソース提供、活動を行った。

2.2.3 フォーラムでの作業の流れ

たとえばトピック1の「自己紹介」ではテキスト・ページ「自己紹介 Selbstvorstellung と相互評価」とフォーラム「Selbstvorstellung 自己紹介」がコンテンツとして提供されている。

まずは対面授業で、自己紹介に関するテキストやビデオを素材に学習し、自己紹介に役立つ語彙や表現を学ぶことから、このテーマの学習は始まる。いったん自己紹介のテキストを書き、それをグループ内で口頭発表するところまでで、対面授業は終了した。終了時に、Moodle上で次週までに自己紹介を発表することを宿題とする旨、学習者に伝えた。フォーラムには、この時点で、教員の自己紹介が記してある。学習者は、授業終了後、教員の自己紹介を参考にして、自己紹介のテキストをフォーラム上で発表する。教員は、フォーラム上に発表された学生の自己紹介を、同じくフォーラム上で添削したり、アドバイスを与える。学習者は、他の学習者が書いた自己紹介や、その添削・アドバイスも参照して、最初の自己紹介を修正し、修正版を再びフォーラムに発表する。1週間後の対面授業では、学習者に共通して見られた問題点について、教員がコメントする。そして、修正版について、学生同士で相互評価をすることを、さらに宿題とする。相互評価のやりかたについて記したのが、次に引用するテキスト・ページ「自己紹介 *Selbstvorstellung* と相互評価」である。

4月28日(月)の12時から、相互評価ができるよう設定しました。

他の方の改訂版の自己紹介を読んで、「評価」をしてください。

それぞれ、最高点が10点です。「合格最低点」が6点。

特によく書けていると思ったり、自分の自己紹介にも役立つ表現があったりしたら、高評価をお願いします。

何人にも評価を与えてくださってOKですが、最低5つは改訂版の自己紹介を読んで、評価すること。

君たちの相互評価の平均点で、この *Selbstvorstellung* については各人の出来具合を評価します。

それでは、一番下の私の自己紹介をまず読んで、評価してみてください。

うまく行ったら、クラスメイトの作文の評価をやって見ましょう。

ドイツ語コミュニケーション2/4

MU > Kommunikation2 > フォーラム > im Bierlokal > Was ich esse und tr

Was ich esse und trinke.
2008年10月24日(土曜日) 14:55 - 山本 理絵 の投稿

- Guten Tag.
- Guten Tag Bitte schön
- Die Speisekarte, bitte.
- Sie wünschen bitte?
- Einmal Martin's Bräu Pils.(2,40)

- Können Sie es bestellen?
- Ich nehme einmal Flädlesuppe(2,90) und einmal Bratwurststeller

Danke, das wäre alles.

- Entschuldigung, Wieviel macht das zusammen?
- Das macht 15 Euro 20.
- 17, bitte.
- Danke schön!

図2 フォーラム Im Bierlokal への学生の投稿 (初稿)

以上が、1回のトピックの大まかな学習手順である。だいたいの学生が、自己紹介(初稿)→添削・アドバイス→自己紹介(修正稿)→添削・アドバイス、という4段階の学習過程を経てテキストを作成し、さらにその間に、他の学習者のテキストや添削を参照し、相互評価を行った。なかには、自己紹介の最終稿を作成し発表するものもいた。

フォーラムは、「自己紹介」、「ビア・レストラン」、「ジャガイモのパンケーキ」、「私が訪ねる街」の4トピックとなった。「ビア・レストラン」は、「レストランでの注文と支払い」というテーマでの対面授業に対応して設定したフォーラムである。まず、対面授業では、さまざまな食料品の基本語彙を学び、レ

- So, das kleine Pils, bitte.
Haben Sie schon etwas gefunden?
- Ich nehme einmal Flädlesuppe(2,90) und einmal Bratwurststeller(3 versch)
- Möchten Sie eine Brezel?
- Nein, danke, das wäre alles.
- Jawohl, vielen Dank.
- _____
- Entschuldigung, ich möchte gern zahlen.
- Das macht 15 Euro 20.
- 17, bitte.
- Danke schön! Auf Wiedersehen.
- Danke auch. Auf Wiedersehen.

Bild: Bratwurststeller (9.90 Euro)



図3 フォーラム Im Bierlokal での学生の投稿（初稿）についての添削

レストランでの注文と支払いの表現をテキストやビデオで学習し、Speisekarte (メニュー表)をもとに Dialog を書き、ロールプレイをグループで行った。フォーラムでは、まずフライブルク市内の Bierlokal (ビアレストラン) のウェブサイト画像つきで表示してある Speisekarte を参照し、夕食に適切な料理と飲み物を探す。その上で、教員がフォーラムで提示している Dialog の雛形を参考に、注文と支払いの Dialog を作成し、フォーラムに投稿する。教員はその Dialog を添削し、アドバイスをを行う。添削、アドバイスを受けた学習者は、他の学習者の Dialog と添削も参考にしながら、Dialog の改訂版を作成し、フォーラムに投稿する。その後、改訂版の Dialog を、学習者同士が相互評価し、提供された情報を共有する。以上が授業と CALL の流れである。さらに、この夏は、8名の履修者がフライブルク大学の夏期研修に参加したのだが、その参加者と引率した教員(松尾)は、フライブルク到着二日目の夕食を当該の Bierlokal で摂った。フォーラムではネット上の情報でしかなかった料理や飲み物を、実際に注文して、味わい、支払う、という行動へと連動したわけだが、このような連動は、他のフォーラムでの学習内容に関しても多かれ少なかれ実際に行われたのではないかと期待している。

2.2.4 Wiki での作業の流れ

Wiki を利用したのは、「授業で使うドイツ語表現」というテーマである。この場合も、対面授業で、ネイティブの授業でよく用いられるドイツ語の指示表現や文法用語などの語彙を学習した。授業終了時に、宿題として、教科書「Tangram 1 A」(Hueber : Ismaning 1999, G 16) にまとめられていた授業でのドイツ語表現集を渡し、3人ずつのグループで、担当する部分を割り振った。対面授業後に、学生は「松山大学 Moodle」の Wiki 「Deutsch in der Klasse」にアクセスする。そして教員が投稿していた表現例(独和)を参考にして、自分たちの担当部分を Wiki にアルファベット順に投稿する。教員はそれを見た上で、一部修正・コメントする。学習者は、他の参加者の投稿も参照し、自分のグル

ープの投稿を加筆・修正する。最終的には、A-Zまでの「授業で使うドイツ語表現」がクラス全体で共有されることになる。

このWikiはバージョン32に達し、授業でよく使う54種の表現が、独和両語併記でまとめられた。

Kommunikation2: Deutsch in der Klasse - Microsoft Internet Explorer
 http://a-la-sa-m-i-a-lang.sga.nar.mcd.wiki/view.php?id=454

Deutsch in der Klasse

ドイツ語コースの教室で使われるドイツ語表現を、みなで協力してまとめてみましょう。
 a b c 順になるよう、書き足してってください。他のグループが書いたものを消してはいけません。

上の「編集」をクリックすると、書き込み、修正のできる編集画面が開きます。
 書き込みが終わったら、下の「保存」をクリックしてください。

ドイツ語は半角で入力し、日本語は全角で入力します。
 ドイツ文字が必要なときは、次からコピーしましょう。ä Ä ö Ö ü Üß

または上のアイコンの中で、スマイリー☺の右のキーボードのようなアイコンをクリックすると
 特殊文字を入力するためのポップアップキーボードがでできます。

Antworten Sie 答えてください。

Arbeiten Sie in Gruppen. グループ作業をしてください。

Beantworten Sie die Fragen. 質問に答えてください。

Berichten Sie 報告してください。

Beschreiben Sie. 描写してください。

Bilden Sie Sätze. 文を作ってください。

Diskutieren Sie. 議論して下さい。

Ergänzen? Sie. 補ってください。

Einsetzen Sie die Bilder durch die passenden Wörter. イラストを適切な言葉で言い直してください。

Finden Sie weitere Fragen. 他に質問はありますか。

Fragen Sie Ihren Nachbarn. 隣の人に質問をしてください。

Hören Sie ...(bitte) noch einmal. もう一度聞いてください。

Nehmen Sie Platz, bitte. どうぞ座ってください。

図4 Wiki「授業で使うドイツ語」

2.2.5 コースの分析・評価

「ドイツ語コミュニケーション2/4」コースのコンテンツとログ・レコード数をまとめると次のようになる。

1～15が前期のコンテンツで、16・17が後期のコンテンツである。

一見して明らかなのは、「テキストページ・リンク」(3-7)へのアクセスが少ないことである。情報を提供するだけのコンテンツでは、とくにそれが頻繁に更新されない場合、何度も見るほどの興味を引くことはできない。「小テスト」(10, 14)は複数回、回答することができるよう設定していたが、作成に手間がかかる割には、学習者は何度も繰り返し練習するわけではない。Nr. 10

	コンテンツ名	リソース・活動名	レコード数	教員レコード数	学生レコード数
1	ニュースフォーラム	フォーラム	41	4	37
2	質問フォーラム	フォーラム	210	42	168
3	フライブルク情報1	テキストページ・リンク	36	10	26
4	フライブルク情報2	テキストページ・リンク	33	5	28
5	松山市のドイツ語サイト	テキストページ・リンク	19	5	14
6	松山市フライブルク市交換留学生のプロゲ	テキストページ・リンク	14	5	9
7	自己紹介 Selbstvorstellung と相互評価	テキストページ	40	8	32
8	Selbstvorstellung 自己紹介	フォーラム	2,002	343	1,659
9	Deutsch in der Klasse	Wiki	182	35	147
10	Matsuyama und Freiburg	小テスト	226	99	127
11	im Bierlokal	フォーラム	1,398	253	1,145
12	Kartoffelpfannkuchen	フォーラム	822	129	693
13	Deutsche Bahn	フォーラム	585	95	490
14	Baden-Württemberg-Ticket	小テスト	199	66	133
15	die Stadt, die ich besuche	フォーラム	1,000	233	767
16	Was haben Sie in den Sommer-ferien gemacht ?	フォーラム	296	40	256
17	die Stadt, die ich besuchte	フォーラム	102	9	93

表2 コンテンツとレコード数

「Matsuyama und Freiburg」は受験者13名で受験件数は15回、Nr. 14「Baden-Württemberg-Ticket」は受験者11名で、受験件数は15回だった。それに対して、アクセス数が多いのはフォーラムである。ただし、「ニュースフォーラム」のように学習者からの投稿が期待されないものはアクセスがほとんどない。Wikiは、協働作業と共有には適しているが、相互評価には向かないため、フォーラムほどのアクセス数はない。フォーラムの中でも、Nr. 8「Selbstvorstellung 自己紹介」、Nr. 11「im Bierlokal」、Nr. 15「die Stadt, die ich besuche」のような、学生の「ディスカッション」がコンテンツの中心になり、相互評価するフォーラムが、特にアクセス数が多い。「ディスカッショントピック」(投稿テーマ)数は、Nr. 8「Selbstvorstellung 自己紹介」が22件、Nr. 11「im Bierlokal」が20件、Nr. 15「die Stadt, die ich besuche」が12件だった(Nr. 15はグループによるディスカッショントピックの投稿という形式をとったため、比較的件数は少ない)。しかし教員のアクセス数もそれに応じて増え、Nr. 8「Selbstvorstellung 自己紹介」では300回以上、Nr. 11とNr. 15ではそれぞれ250回前後を数えている。逆に、後期のフォーラムに見られるように、教員が多忙のためアクセスできない場合、学生からのアクセス数も伸びない。

2008年度における「ドイツ語コミュニケーション2/4」コースの問題点もここにある。前期中は対面授業とMoodleによるCALLをかなり連動させて授業を行ったのだが、後期にはフォーラムを2つしか展開できなかった。これは、後期の授業テーマが、副文をもちいた理由付けや、条件文の練習へと移っていったことにもよるが、最大の原因は、教員が多忙となり、前期中ほどフォーラムやWikiにアクセスする時間的余裕が持たなくなった点にある。小テストであれば、いったん作成したものは、細かな修正は必要だが、基本的にその後繰り返し利用することができる。しかしフォーラムやWikiといった学習者の積極的学習活動を中心としたコンテンツでは、教員がこまめにアクセスして、ケアする必要がある。学習者の能動的協働学習を中心としたCALLを定常的に運営するには、教員の協働もまた必要であり、教員だけでなくチューターを

組織したり、また、学習者－教員の対応だけでなく、学習者間でのインタラクティブをもっと活発化することが必要だと思われる。これらは今後の課題といえよう。(松尾博史)

2.3 ドイツ語キャリアアップ I

2.3.1 コース概要

2.3.1.1 授業の進行と Moodle コースとの連携

言語文化上級科目「ドイツ語キャリアアップ I」は、ドイツ語技能検定試験(独検)4級の合格を目指す対策コースである。授業は、週に1回、非PC教室で行われた。当授業の受講者数は20人で、「松山大学 Moodle」上のコース名は「独検4級対策コース」としている。

Moodle 上の受講登録者数は28人で、その内訳は次のとおりである。当授業の登録者20名に加え、独検の過去問題を公開する許可をえている関係で、独検実行委員1名が含まれている。その他、教員が「学生ロール」で登録しているものが1件、また、当授業を受講していないが Moodle 上の「独検4級対策コース」に参加したい申し出のあった本学学生6名の参加を認め、登録者に加えている。

独検実行委員1名と教員の学生ロール1件を除く26名中の25名が、2008年6月22日に本学を試験会場のひとつとして実施された独検4級試験を受験した。

「ドイツ語キャリアアップ I」の初回授業ガイダンスで、Moodle による学習支援サイトを用意していることを案内し、Moodle を積極的に活用した度合いに応じて、「Moodle 活用積極点」を成績評価に加えることを告知した。実際のアクセス方法は2回目の授業で案内し、各受講生にログイン用 ID とパスワードを配布した。

授業そのものは、毎回、指定した教材を使い、教科書の構成順に解説、及び練習を行った。したがって、授業時間内に Moodle にアクセスすることは課し

ていない。第3回授業時までには、各自で学内のPC自習室や自宅から Moodle にログインさせ、全員が Moodle にログインできたことを確認した。

2.3.1.2 コースの評価

本稿の評価対象者は、「ドイツ語キャリアアップI」を受講した20名とする。評価一覧は表3のとおりである。なお、受講生が今回受験した2008年度春季独検4級の最低合格点は60点 ($p \geq 60$) であった。当授業で導入した「Moodle 活用積極点」は、次の(1)であげる総合評価の算出方法における T_{N2} に相当する。

(1) 総合評価の算出方法：

- a. 公開した学習支援コンテンツ ($n_1=26$) のうち、各受講生が授業開講期間内にアクセスし、活用(閲覧, 参照, 解答, 投稿)したコンテンツの総数 n_2 の T-score を出す(コンテンツの詳細については2.3.1.3を参照)。

$$T_{N2} = (n_2 - (n_2 \text{の平均値})) * 10 / \text{標準偏差} + 50$$
- b. 1回の授業への出席点を1点とし(授業は全15回開講されたため、最大で15点)、それに T_{N2} を5で除したものを加えた点数を「平常点」とする(欠席回数が0回で、平均的な Moodle 活用積極点を割り振られた受講生の場合 ($T_{N2}=50$)、平常点が25点となる)。
- c. 「平常点」に、ドイツ語検定試験本番の素点 p を足して、総合評価とする。

	学 生																			
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
n_2	1	3	12	2	10	18	6	12	13	—	19	2	2	14	11	23	21	6	14	3
T_{N2}	37	40	53	38	50	61	44	53	54	—	63	38	38	56	51	68	66	44	56	40
p	46	54	60	69	52	52	56	55	53	—	67	57	51	75	77	70	73	61	71	75

表3 評価一覧(数値の小数点以下は四捨五入。学生Jは授業に不参加)

2.3.1.3 活用したコンテンツについて

Moodle 上で作成し活用させたコンテンツの内訳は (2) のとおりであり、(2a), (2b), (2c), (2d), (2e) の 26 項目のコンテンツを成績評価対象とした。

- (2) a. 過去に実施された独検問題の解答と解説
2008 年春／2007 年秋／2007 年春／2006 年秋／2006 年春／2005 年秋／2005 年春／2004 年秋／2004 年春／2003 年秋／2003 年春
- b. 直前模擬試験
[1] [過去問題 2002 年秋] / [2] [過去問題 2002 年春]
- c. 動詞の格支配をマスターするための例文集
- d. 語彙練習ドリル
語彙小テスト／語彙 (名詞編) / 語彙 (動詞編) / 語彙 (その他の品詞)
- e. 各種文法練習ドリル
現在人称変化の練習問題／格変化の練習問題 / 3 格をともなう前置詞 / 4 格をともなう前置詞 / 場所・目標を示す前置詞 (3・4 格支配の前置詞) / 2 格をともなう前置詞 / 前置詞の練習問題 / 接続詞・疑問詞
- f. みんなで作る質問掲示板
- g. 受講生たちが作る「模擬問題」
- h. DVD 貸出サービス

さらに、上記コンテンツを Moodle のモジュールごとに分けると (3) のようになる。成績評価に関わる範囲では、「フォーラム」、「ウェブページの作成」、「小テスト」の各モジュールを使用したことになる。

- (3) a. フォーラム：
a-1. 特定の文法項目について、自作の例文を作成させ、投稿させた (= (2c))

- a - 2. 教員が答えるのではなく、受講生同士でコメントしあう
掲示板 (= (2 f))
- b. ウェブページの作成：
 - b - 1. ドイツ語検定問題の解説を掲載 (= (2 a), (2 b))
 - b - 2. ランダム単語ドリル (= (2 d))
 - b - 3. 文法項目の解説 (= (2 e) の一部)
 - b - 4. 受講生たちの手による「模擬問題」の作成 (= (2 g))
- c. 小テスト：
文法項目ごとの練習問題・ミニテスト (= (2 e) の一部)
- d. ファイルまたはウェブサイトへのリンク：
ドイツ映画 DVD を受講生に貸し出すためのサイトにリンク
(= (2 h))

次の 2.3.2 節では、コンテンツ別に受講生のアクセス分布とその特徴を示し、それぞれのコンテンツの長所や短所について考察する。

2.3.2 コンテンツの分析

2.3.2.1 アクセス分布とその特徴

2.3.2.1.1 (2 a)：過去に実施された独検問題の解答と解説

このコンテンツのアクセス分布から見てとれる特徴としては、直近の年度の問題にアクセスが集中していることがあげられる。しかしながら、この「アクセス分布の偏り」は、Moodle の特性によるものではない。受講生たちは他の検定試験（たとえば「英検」など）を知る経験から、この種の検定試験には出題傾向に一定の波があり、あまり年度が離れていると出題傾向が違う可能性があることを知っているのではないと思われる。そのため、比較的出題傾向が似ていると想定できる、直近の年度の問題を優先的に解答したのではないかと考えられる。

また、2008 年 6 月 22 日の独検受験後には、この「過去問題」のアクセスが

- 1 過去5年間の実際の独検問題に挑戦してみよう！
 (順次、公開していきます)
- ・オンラインで解答できるものは、「2007年度秋4級」と「2007年度春4級」の2つです。
 - ・その他の年度の過去問題については、コピーしたものを配布し、解答・解説をごちらに掲載します。
 - ・Neu! 「2008年度春」独検4級の解答と解説
- 2008年春 (2008F) 解答と解説
 2007年秋 (2007H)
 2007年春 (2007F)
 2006年秋 (2006H) 解答と解説
 2006年春 (2006F) 解答と解説
 2005年秋 (2005H) 解答と解説
 2005年春 (2005F) 解答と解説
 2004年秋 (2004H) 解答と解説
 2004年春 (2004F) 解答と解説
 2003年秋 (2003H) 解答と解説
 2003年春 (2003F) 解答と解説

図5 独検過去問題の解答と解説

	のベアクセス (ユニーク数)	独検当日以前	独検翌日以降	積極点
2003年春	31 (10)	31	0	*
2003年秋	26 (10)	26	0	*
2004年春	21 (9)	21	0	*
2004年秋	17 (9)	16	1	*
2005年春	23 (11)	23	0	*
2005年秋	25 (11)	25	0	*
2006年春	54 (21)	54	0	*
2006年秋	23 (13)	23	0	*
2007年春	180 (14)	174	6	*
2007年秋	391 (23)	388	3	*
2008年春	16 (8)		16	*
合計	807	781	26	

表4 アクセス分布

なくなっていることも大きな特徴のひとつである。自分が受けた試験の解説ページすらも、アクセスしたのは8名に過ぎない。

ここから、単なる「閲覧／参照」型の課題は積極的なアクセスを促せないことが示唆できる。

2.3.2.1.2 (2b)：直前模擬試験

このコンテンツは、実際の受験に先立ち、模擬問題用紙を配布し、各自で解答させた後、その答えあわせと解説の確認のため指定のページを参照するように指示したものである。「模擬試験」と銘打っても、アクセスは少ない。解答と解説を「閲覧／参照」させるだけの課題のため、2.3.2.1.1と同様に積極的なアクセスを促せるものではないかもしれない。しかしながら、この課題の場合、模擬問題を解くという課題が先行しているため、模擬問題を解いたのであれば、その答えや解説を知りたくなるものではないかということも言えそうである。それにもかかわらず、実際にはアクセスが少ないということは、「模擬問題に挑戦する」という課題そのものに受講生たちが魅力を感じていないことを暗示しているのかもしれない。この点については、残念ながら、学期末のアンケートでたずねることができなかった。次年度以降、同じような傾向が出る

2 最終チェック！
 模擬試験 (1) と (2) の正答
 ④ 模擬試験 (1)
 ④ 模擬試験 (2)



図6 直前模擬試験

	のべアクセス (ユニーク数)	独検当日以前	独検翌日以降	積極点
(1)	24 (13)	24	0	*
(2)	14 (11)	14	0	*
合計	42	38	0	

表5 アクセス分布

場合、「模擬問題」に対する意識調査として、アンケートを取りたい。

2.3.2.1.3 (2c)：動詞の格支配をマスターするための例文集

この課題は、ドイツ語において注意すべき格支配をもつ動詞について、それぞれひとつずつ例文を自作し、それを投稿させたものである。そのさい、なるべくインパクトのある内容を作成するよう指示した。これは、自分が工夫して作った例文で動詞の格支配が意識できるのはもちろん、他人の作った例文からも、脳裏に残りやすいお気に入りの例文が見つかるかもしれないという効果を期待してのことである。結果として、クラスの6割の受講生の投稿があった。

この課題は、「閲覧／参照する」だけのものではなく、自ら能動的かつ情報発見的 (productive) に取り組む性格のものである。また、「問題に解答する」といった課題のような「答えがひとつである」というものでもなく、各人の自

3 第5回(2008年5月21日) □

Hausaufgaben:

1) 教科書 S. 27 の練習問題を解き、答えあわせをしたうえで、質問を用意してくる
 2) 教科書 S.39-40 にある「動詞の格支配(注意すべき格支配を持つ動詞)」に挙がっているそれぞれの動詞で、具体的な例文を作る。なるべく、インパクトのある(脳裏に残りやすい)面白い文を作るように工夫すること。

2)については、みんなの作った例文を相互に見られますので、自分の気に入った例文に出会えるかもしれません。また、それぞれの例文は、教員が添削して、一人ひとりにコメントしますので、コメントを見て、直すべきところは直して、理解をより深めていってください。

📖 動詞の格支配をマスターするための例文集

図7 例文集

	のベアアクセス (ユニーク数)	独検当日以前	独検翌日以降	積極点
新規投稿	12 (12)	12	0	*
返信(教員)	21 (1)	21	0	
修正(学生)	7 (5)	7	0	
閲覧	585 (20)	585	0	
合計	625	625	0	

表6 アクセス分布

由な発想が求められるものである。この課題のもつ「創造性の高い」性格が、クラスの約4割の受講生にとっては動機づけがマイナスに働いた可能性もある。このことから、一口に「作文」といっても、一定の雛形を提示してそれに準じて書いてもらうものと、この課題のように自分で創意工夫して書くものでは、学習者の心理的負担が大きく違うということが示唆できる。

なお、投稿した受講生のうちの5名については、教員のフィードバックに対して、さらに例文を追加したり、指摘された誤りについて修正を施したりするより高い積極性がみられた。

2.3.2.1.4 (2d)：語彙練習ドリル

この課題は、JavaScriptをHTMLに組み込み、独検4級対策として覚えておきたい単語群を品詞別にランダムに表示して、その意味を確認・習得してもらうための練習課題である。品詞は「名詞」「動詞」「それ以外の品詞」の3種類に分類した。さらに、語彙の総合的な習熟度を測るための小テストも用意した。

語彙のランダム練習は、学期末の授業アンケートによれば、本授業の受講生たちにとってなじみのないタイプの練習課題だったようで、新鮮な印象を与えたようである（授業アンケートにおける意見については、2.3.3も参照されたい）。このランダム練習を表示するためのスクリプトは、既成のものではなく、担当者が自らHTMLに組み込んだものであるが、Moodleはこのように既存のモジュール（ここでは「ウェブページの作成」）をうまく拡張すれば、より高度な活用ができることがわかる。

また、受講生たちは、小テスト形式の確認課題も自らの習熟度を測るために積極的に活用したという結果が出た。この(2d)のコンテンツはどれも、全般的に学習者の積極的な活用を促すことができた。

なお、品詞別に分類した語彙ドリルのうち、「動詞」という品詞を中心に学習しようとする意識が高い結果が出ているのが興味深い。このことから、学習者は、認知的に（意識的であれ無意識的であれ）、文の中心に動詞を据えて理

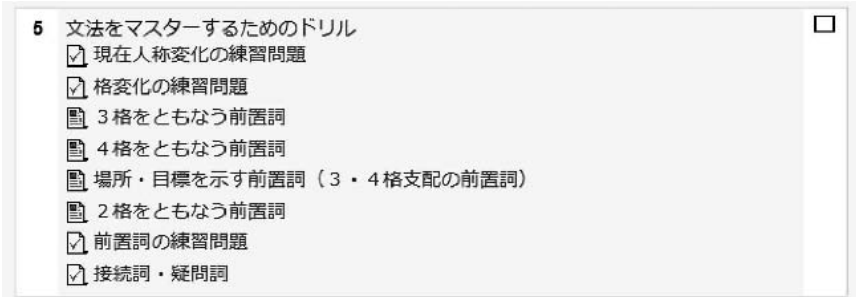


図9 文法練習ドリル

	のベアクセス (ユニーク数)	独検当日 以前	独検翌日 以降	積極点
現在人称変化 (練習)	112 (15)	109	3	*
格変化 (練習)	53 (10)	51	2	*
3格前置詞	19 (7)	19	0	*
4格前置詞	11 (5)	11	0	*
3・4格前置詞	12 (6)	12	0	*
2格前置詞	7 (6)	7	0	*
前置詞 (練習)	50 (9)	50	0	*
接続詞・疑問詞 (練習)	48 (10)	48	0	*
合計	312	307	5	

表8 アクセス分布

ことを意味している。それに対し、特記のないものは「閲覧／参照」タイプの課題である。この課題群のアクセス分析から見てとれる重要なポイントは、文法項目をまとめたものを閲覧させるだけの課題は、極めて低いアクセス意欲しか引き出さないという事実である。この点については、次のようなことが指摘できるだろう。当授業では、市販の独検対策教材を指定し、それを使用して解説・練習を行ったため、教材に書いている文法解説が同じように Moodle 上で公開されているとしても、それをわざわざ Moodle で閲覧することが敬遠されたのである。

2.3.2.2 コース目標とモジュール選択

以上のアクセス分析から、e-learning 環境を提供するうえで気をつけるべき点としては、(4) の各号があげられる。

- (4) a. 単に「閲覧／参照」するだけの課題の場合、学習者の手元にある教材にはない内容を含むものでないと、積極的なアクセスは促さない。
- b. インタラクティブな課題には積極的なアクセスを促す効果が期待できる。ただし、その課題の持つ「情報発信的 (productive)」な性格が、そのコースで設定される目標・目的に合っていないければ、学習者の積極性を反対に減らしてしまうこともある。

当科目「ドイツ語キャリアアップ I」は、独検 4 級に合格することによる学生のキャリアアップを支援するものであり、より実践的な言語運用能力の獲得を主たる授業目標には設定していないため、参加者のおよそ 4 割は、(2c) であげたような“答えのない”作文課題に対して心的負担を感じたと思われる。

2.3.3 授業評価アンケート (Moodle 関連分)

Moodle を用いた e-learning 環境を、教材を用いた独検対策の授業と連動させる取り組みについて、学期末の授業アンケートでは概ね好意的な意見が寄せられた。以下、(5) として、受講生からの意見を原文のまま掲載する。

- (5) a. オンラインの単語練習はとても役に立ちました。また過去問をとくのも役に立ちました。単語練習はランダムにでてくるので、すごく勉強になりました。もっと単語数が増えたらいいなと思いました。
- b. 1つの項目、例えば、格助詞なら格助詞⁵⁾で自分の文をつくれるところを作るところがあったらいいなと思う。

- c. みんなで問題を作るというのはいいアイデアだったと思う。それによって自分も学ぶことが出来るので、もっといろんなタイプの問題をつくったらいいと思う。

(5a) は (2d) を好意的に評価するもの、(5b) は (2c) に関連して「動詞の格支配」以外の項目でも同じように自分たちで例文を作りたいという意見、(5c) は (2g) を好意的に評価するものである。なお、(5a) で「もっと単語数が増えたら」とあるが、使用した単語は、市販の「ドイツ語検定4級対策」の書籍から語彙を抽出し、対応する訳語は担当者自身で作成した。今後は、さらに「独検3級」レベルの語彙ドリルを構築することや、語群を品詞別ではなくテーマ別（食事に関わる語彙群、趣味の表現に用いることができる語彙群など）で分類することも試したい（ただし後述するように、語群を品詞別に分けないと、実用上の支障が出てくる場合もある）。

2.3.4 Moodle 学習の効果

Moodle は、モジュールが豊富であるため、様々な用途のコンテンツを一度に含むことができる。そのため、単なる e-learning システム（教育的学習支援サイト）にとどまらず、XOOPS⁶⁾ や Joomla!⁷⁾ などの CMS（コンテンツ・マネージメント・システム）と同様に総合的なポータルサイトとしても使える。Moodle の標準モジュールでは物足りない部分はあるが、これは後述するように、追加的にモジュールを導入することで解決する。

Moodle にアクセスする積極性と独検合否の関係は、次の表9が示すように

5) ドイツ語には（日本語のような）格助詞はなく、冠詞が格変化することによって格を表示する。このコメントは、「名詞の格を自分で例文を作ることによって意識的にマスターするためのツールがあると良い」と読み替えることができ、同様の形式で扱う文法事項を増やしてほしいということが意図されていると理解できる。

6) <http://xoopscube.sourceforge.net/ja/>

7) <http://www.joomla.jp/>

学生	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
n_2	1	3	12	2	10	18	6	12	13	—	19	2	2	14	11	23	21	6	14	3
T_{N2}	37	40	53	38	50	61	44	53	54	—	63	38	38	56	51	68	66	44	56	40
p	否	否	合	合	否	否	否	否	否	—	合	否	否	合	合	合	合	合	合	合

表9 結果一覧 (n_2 の最大値は26。数値の小数点以下は四捨五入)

一定ではない。平均的な回数以上 Moodle 上のコンテンツを活用した受講者(特に T_{N2} が 55 以上の人)は例外なく独検4級に合格することができたが、 T_{N2} が 50 未満の人(活用回数が平均以下)でも合格しているし、クラス平均値以上のアクセス回数の人(ここでは、 T_{N2} が 50 以上 55 未満の人を指す)でも不合格になっている人はいる。(Moodle に限らず) e-learning のシステムは、そのアクセス数に比例して目標達成率が上がることを保証するものではなく、週に一度の授業での勉強を補うものとして、学習者が自分の都合のよい時間帯やペースで問題に取り組めたり、確認すべき事項を確認したりできる支援サービスであることは忘れてはならない。今回は特定のコンテンツへのアクセス回数の多さ少なさ(絶対量)で評価したが、どのコンテンツをどの頻度で、どれぐらいの継続時間、どのような内容で、どれぐらい積極的に取り組んだのかという「質」が重要であるのは言うまでもない。

2.3.5 今後の Moodle のさらなる活用に向けて

「ドイツ語キャリアアップ I」に連動した Moodle の「独検4級対策コース」を提供するうえで、担当者が特に力を入れたもののひとつに「単語練習ドリル」がある(2.3.2.1.4を参照)。これは、あるドイツ語単語が「表題」としてランダムに表示され、その下にそれに対応する日本語の候補が2つ表示されるもので、学習者はその2つのうち、適切なほうをマウスクリックで選択する(図8.2)。

このドリルの長所は、表題ドイツ語単語の表示も、また候補となるダミーの日本語単語も練習するたびにランダムに違ったものが表示される(正しい日本

語対応語の表示位置も、向かって右と左のどちらに配置されるかは、その都度変わる) ことである。他方、このドリルの短所は、単語を品詞ごとにわけて提供しないと、表題単語が動詞だったとして、その場合にダミーの訳語に名詞や形容詞など品詞上明らかにダミーだとわかるものが表示されてしまう点である。また、このツールを提供するには、Moodle モジュールの「ウェブページの作成」を選び、ソース直接入力画面を使ってスクリプトソースコードを貼りつけるが、単語を後から追加したいなどソースコードを編集したい場合に、すでに作っておいたソースを後で開いても、なぜかソースが不完全にしか再現されなくなってしまうという問題がある。Moodle モジュールに、そもそも、JavaScript のタグを認識するところで不具合があるようである。

そこで、Moodle のさらなる活用のために、Moodle ユーザが開発したモジュ

Moodle Demo: Hangman

ドイツ語オンライン学習

Übung macht den Meister

Moodle > Moodle Demo > Games > Hangman

この Game を実行する

黒色

Du hast noch 4 Versuche.

SCHWAR_

Buchstaben: **A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z**

Grade : 48 %

Grade in whole game : 48 %

あなたは、匿名ユーザとしてログインしています。(ログアウト)

Moodle Demo | From Moodle Themes | with Bootstrap

図 10 試験運用中の module game

ールを追加で導入することで、コース管理者が希望する様々なツールを提供できる可能性があることを報告したい。上で紹介した「単語ドリル」については、Vasilis Daloukas 氏が開発したモジュール “module game” が存在し⁸⁾、非常に有用である印象を受ける。これには Hangman, Millionaire, Cross Word Game などのゲーム形式の問題／課題が含まれる（図 10）。

これは、モジュール：用語集（Glossary）に登録されている単語を抽出する仕組みになっているため（図 11）、用語集を適宜編集していけば、ゲームで使われる語彙は操作できる。

授業アンケートで得た意見（5 a-c）をふまえ、今後は（上述のモジュールを使った）単語練習ツールの充実化、（授業の到達目標に応じた）情報発信型の

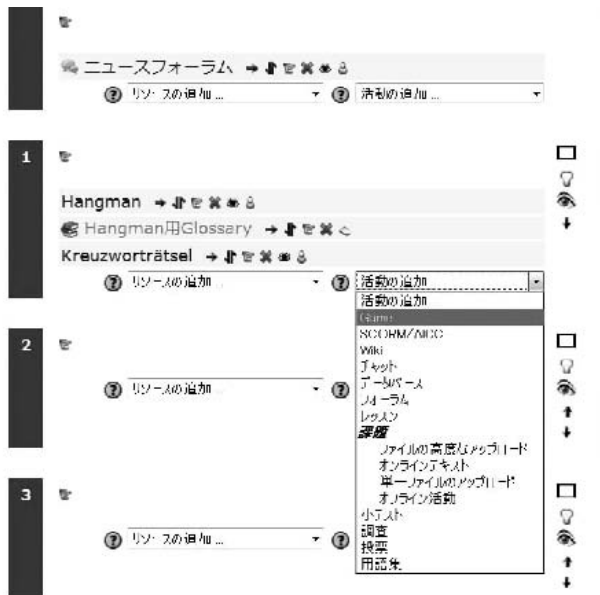


図 11 module game が Moodle のモジュール：活動（Activity）に追加

8) <http://bdaloukas.gr/moodle/course/view.php?id=15>（現行バージョン 1.6）

練習課題，受講生の活動成果が後にまで残る取り組み（たとえば，今回の「受講生の手による模擬問題作成」のような）を拡充したい。Moodleはこれらすべてにたった一つのプラットフォームで応えてくれる優れた（LMSを越えた）CMSである。（田中雅敏）

3. フランス語コース

3.1 コース編成

2008年度のフランス語の全コースを図12に示す。

マイコース	
仏検3級コース 教師: 大浜 博 教師: 安積 みづの 教師: 田和 勇希	仏検3級対策コースです。仏検実行委員会の許可を得て、仏検3級の過去問題を利用しています。
仏検4級コース 教師: 大浜 博 教師: 安積 みづの 教師: 田和 勇希	仏検4級対策コースです。仏検実行委員会の許可を得て、仏検4級の過去問題を利用しています。
仏検5級コース 教師: 大浜 博 教師: 安積 みづの 教師: 田和 勇希	仏検5級対策コースです。仏検5級過去問題を参考に作成した、オリジナルの類題です
フランス語 (サリュ!)コース 教師: 大浜 博 教師: 安積 みづの 教師: 田和 勇希	フランス語基礎科目：フランス語1・2（教科書『SALUT!』）のおさらい用コースです。
フランス語(聞く・話す・読む・書く)コース 教師: 大浜 博 教師: 安積 みづの 教師: 田和 勇希	フランス語基礎科目：フランス語1・2（教科書『フランス語---聞く・話す・読む・書く』）のおさらい用コースです。

図12 フランス語コース一覧

3.1.1 1年次配当基礎科目フランス語1・2対応コース

従来のフランス語1・2コースは、フランス語 (Salut!) コースと改名して、

トピックアウトライン	
<p>0. はじめに：つづり字の読み方の概要と挨拶表現など</p> <ul style="list-style-type: none">  質問コーナー  つづり字の読み方と挨拶  発音のテスト  挨拶のテスト  ニュースフォーラム 	
1	<p>1 自分について、人について話す <input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none">  1.1 自分・相手・第三者の名前、国籍、出身地 テスト!  1.1 自分・相手・第三者の名前、国籍、出身地 テスト*  旅のお役立ち情報-乗り物に乗る  文法のまとめ
2	<p>1 自分について、人について話す <input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none">  1.2 国籍、住んでいるところ、年齢 テスト!  1.2 国籍、住んでいるところ、年齢 テスト*  旅のお役立ち情報-乗り物に乗る  文法のまとめ
3	<p>1 自分について、人について話す <input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none">  1.3 職業、言語 テスト!  1.3 職業、言語 テスト*  旅のお役立ち情報-乗り物に乗る  文法のまとめ
4	<p>1 自分について、人について話す <input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none">  1.4 好き嫌い、年号 テスト!  1.4 好き嫌い、年号 テスト*  旅のお役立ち情報-食べる  文法のまとめ
5	<p>2 1 週間・1日の生活を話す <input type="checkbox"/></p> <ul style="list-style-type: none">  2.1 月曜から日曜まで テスト!  2.1 月曜から日曜まで テスト*  旅のお役立ち情報-食べる  文法のまとめ

図 13 フランス語（聞く・話す・読む・書く）コース トピック構成

そのまま再履修クラス用として残し、新規1年生クラス用に、フランス語（聞く・話す・読む・書く）コースを新設した。この新設コースは、同一教科書を使用する3名の担当者のクラスが参加することを想定し、使用教科書⁹⁾の章建

9) 中川努他、『フランス語 聞く・話す・読む・書く』白水社、2008年。

てに即して図13のようなトピック構成にした¹⁰⁾

各トピックは教科書当該節の文法事項などの解説文(『文法のまとめ』)、学習内容チェック用小テスト(テスト①, テスト②)、そしてフランスの日常生活の断片を紹介するコーナー(『旅のお役立ち情報』)から成る。このコーナーの記事は、昨年度、フランス語1・2コース用に作成(作成者:安積)したものを再利用している。なお、ここに掲載したトピックアウトラインからも見て取れるように、このコースは未完成であり、前期授業終了の少し手前の段階で中断を余儀無くされた。これ以降に登場する、過去時制の取扱いをめぐって、各担当者の学習指導方針が異なり、教科書の進め方において共同の歩調がとれなくなったからである。このような共通教科書に基づく共通教材を作成しようとする場合の反省点として、当初の授業計画の策定が不十分であったことが挙げられるが、そもそも単独の担当者にあっても授業計画なるものは授業の進行に応じて変更・調整を加えつつ実行されるのが常である。従って異なる担当者間で年間を通して共通の授業を行うことを前提としたコース作成に無理があったと言わざるをえず、今後のコンテンツ作りの改善課題と考えることにしたい。

3.1.2 仏検3級コース

仏検対策コースは、1年に1コースのペースで作成を進め、今年度で5級、4級、3級の3コースが揃い、フランス語基礎クラスから上級クラスのすべての学習段階に対応できるようになった。3級コースのコンテンツも4級と同様、仏検実行委員会の許可を得て、仏検の過去問題を利用している(2001年度春季から2003年度春季までの5セット分)。コースの内容構成については、図14にその一部(筆記問題5番まで)を紹介するが、3級も4級と同じく、各トピックが仏検の問題(筆記問題1番~9番、聞き取り問題1番~3番)の各大問に対応し、各トピックはそれぞれに対応する問題を5セット分含むこと

10) 各トピック内の「テスト」の後の「!」「“」はそれぞれ①、②の文字化けである(後述3.3)。

トピックアウトライン	
<ul style="list-style-type: none">  ニュースフォーラム  質問コーナー 	
1	<input type="checkbox"/>
仏検3級試験問題1番（記述問題） ◆ 2001年度春季から2003年度春季の5セット分（問題1～問題5）を掲載しています。 番号1（1）は、1セット目の第1問の意味です。  語彙の問題	
2	<input type="checkbox"/>
仏検3級試験問題2番（記述問題） ◆ 2001年度春季から2003年度春季の5セット分（問題1～問題5）を掲載しています。 番号1（1）は、1セット目の第1問の意味です。  動詞活用の問題	
3	<input type="checkbox"/>
仏検3級試験問題3番（選択問題） ◆ 2001年度春季から2003年度春季の5セット分（問題1～問題5）を掲載しています。  代名詞の問題	
4	<input type="checkbox"/>
仏検3級試験問題4番（選択問題） ◆ 2001年度春季から2003年度春季の5セット分（問題1～問題5）を掲載しています。  前置詞の問題	
5	<input type="checkbox"/>
仏検3級試験問題5番（選択問題） ◆ 2001年度春季から2003年度春季の5セット分（問題1～問題5）を掲載しています。  文完成（並べ替え）の問題	

図 14 仏検3級コース トピック構成（部分）

になる。このような構成は、同一タイプの問題を集中的に練習する場合には適しているが、模擬試験的に特定年度の問題を1セットだけ受験するには、問題の表示が複雑で、あまり便利であるとはいえない。改善の可能性としては、1トピックの中に、1セット分を全て表示させることが考えられるが、次年度に向けての検討課題としたい。

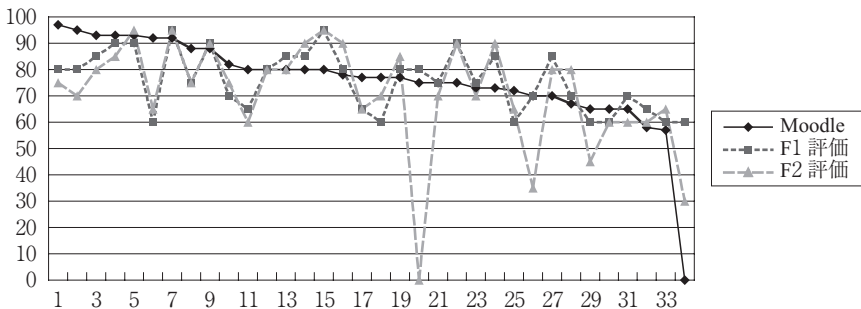
3.2 Moodle 利用状況

今年度は、専任教員3名の担当するクラスの学生全員について、基礎科目フランス語1・2の履修者はフランス語（聞く・話す・読む・書く）コースと仏検5級コースの2コースに、基礎科目フランス語3・4と上級クラス¹¹⁾の履修者は仏検4級コースと3級コースの2コースに登録したが、全クラスを通じて比較可能な形でのデータ採取ができなかったため、報告書作成者（大浜）が担当したクラスについてのみの Moodle 利用状況とその結果を報告する。

3.2.1 基礎クラス：フランス語（聞く・話す・読む・書く）コース

前期授業終了間近の7月25日（金）（4時限目）、873番教室を使い、フランス語1（7）クラスの出席者全員（34名）に当コースにアクセスさせ、3.1.1に示した既習単元の小テストを受験させた。下のグラフ1で、凡例に Moodle とある折線がその時の受験学生の得点（100点満点換算）を降順に表示したもので、それに当該の学生がその前期（科目名：フランス語1）、後期（科目名：フランス語2）に得た最終成績（それぞれF1評価、F2評価）を対照させたものである。

グラフ中、値が0を示しているのは、Moodle については当日欠席した学



グラフ1 Moodle コース小テスト受験結果と成績評価の相関

11) 基礎科目フランス語3・4と上級科目はともに2年次配当科目である。

生、F2 評価については、出席不良により評価を得られなかった学生である。グラフ上でもコース小テスト受験結果と成績との相関が見て取れるが、念のため相関係数を算出したところ、前期成績については 0.51、後期成績については 0.50 の値（小数点以下第 3 位を四捨五入）となった。この小テストは、発音や動詞活用形などの基本事項を 3 択問題の形式で問う非常に素朴なものであるが、その後取得された成績との間に一定程度の相関があることが示された。

3.2.2 仏検コース：各コース受験結果と模擬試験結果

本節では、仏検受験対策用に開設している仏検 5 級・4 級・3 級コースの受験結果と仏検の過去問題を使用した模擬試験の結果を比較し、フランス語科目のシラバスに掲げる学習到達目標（フランス語 1・2 は仏検 5 級、フランス語 3・4 は 4～3 級）の妥当性を検証するための一助としたい。

3.2.2.1 5 級コース

5 級コースは仏検対策コースとしては最も古く、Moodle 導入初年度に開設したコースであり、仏検の過去問題を参考にしつつ松山大学のフランス語担当者がオリジナル問題として自作したものであった。そのためコース用コンテンツとして作成した問題の難易度が、実際の仏検問題からみて適正であるかどうかを検証する必要があつて始めたのが、コース受験と模擬試験受験の結果比較である。

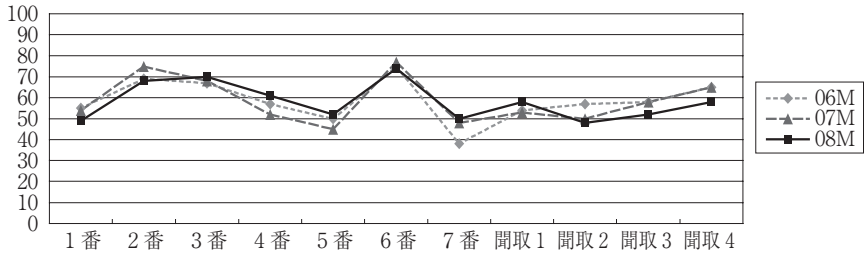
表 10 で、上段の「M」の表示があるのが各年度のコース受験結果で、「模」の表示は仏検過去問題を用いた模擬試験の結果であり、各問題ごとの正答率の平均値を示してある¹²⁾

受験者は当該年度に報告者が担当したフランス語 2 のクラス (06 年度：2 (7) クラス, 07 年度：2 (6) クラス, 08 年度：2 (6) クラス) であり、学年末の

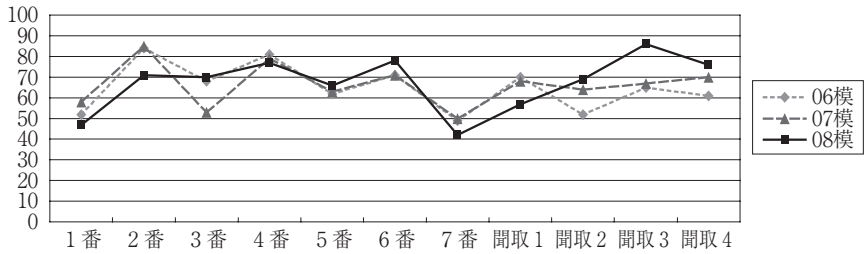
12) 06 年度, 07 年度のデータは、それぞれの年度の報告書に既出である：松山大学『言語文化研究』26-2, 2007 年；27-2, 2008 年。

	1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	聞取1	聞取2	聞取3	聞取4	合計
06 M	55	69	67	57	50	75	38	54	57	58	65	59
07 M	54	75	68	52	45	77	48	53	50	58	65	59
08 M	49	68	70	61	52	74	50	58	48	52	58	58
	1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	聞取1	聞取2	聞取3	聞取4	
06模	52	84	68	81	62	71	49	70	52	65	61	65
07模	58	85	53	79	63	71	50	68	64	67	70	64
08模	47	71	70	77	66	78	42	57	69	86	76	67

表 10 仏検 5 級コース受験結果と模擬試験結果



グラフ 2 5 級コース受験結果



グラフ 3 5 級模擬試験受験結果

授業 2 回分を使い最初に Moodle 5 級コースを PC 室で受験させ、ほぼ 1 週間
 おいて 5 級の過去問題 (06 年度 : 06 春季問題, 07 年度 : 06 秋季問題, 08 年
 度 : 08 秋季問題) を通常の教室で受験させた。従って, コース受験の方は 3
 年間を通じて同一問題であるが, 模擬試験は年度ごとに異なっている。

各問題の内容

1 番：名詞限定辞（冠詞，指示形容詞，所有形容詞など）

2 番：動詞活用形

3 番：文完成

4 番：応答適切性

5 番：語彙

6 番：絵の内容に一致する文を選ぶ

7 番：対話文の空所補充

聞き取り 1 番：適切な応答を選ぶ

聞き取り 2 番：数の聞き取り

聞き取り 3 番：適切な絵を選ぶ

聞き取り 4 番：適切な絵を選ぶ（二択）

受験結果を経年的に見るといくつかの傾向が指摘できる。

- (1) 報告者にとっても予想外であったが，コースの受験成績結果は3年間を通じ，殆ど変動がなく安定した値を示している。
- (2) 一方，模擬試験の方は，それよりも常に数点（5～9点）高いレベルで推移している。
- (3) 各問題の年度ごとの正解率グラフパターンに緩やかな類同性が認められる。

これらについての詳細な分析は別の機会に譲らねばならないが，(1)については，担当者が常に同一教員であったことや，かつクラスも3年間を通じて人文・法学部の混成クラスで，受講生のレベルが比較的均一であった可能性が考えられる。(2)については，5級コースの小テストの問題数が正規の仏検の問題の2～2.5倍となっており，それらを授業時間の制約で比較的短時間(60分程度)で受験させたことや，コンテンツ（特に音声録音，イラスト描画）を，外国人特別講師および学生の協力のもとに自作したため，聴き取り問題の

音声の質や、イラストの鮮明度などの点で解答があまり容易でない場合があったことを指摘しておきたい。また模擬試験は、常に Moodle でのコース受験のあとに行ったので、類似問題の存在や問題形式への慣れなどの影響も当然考えられる。(3)については、仏検5級の問題構成を規範と見る限りで、今回対象となったクラスの学習内容の偏りなどの問題点を推測することもできるが、今後の分析課題としたい。

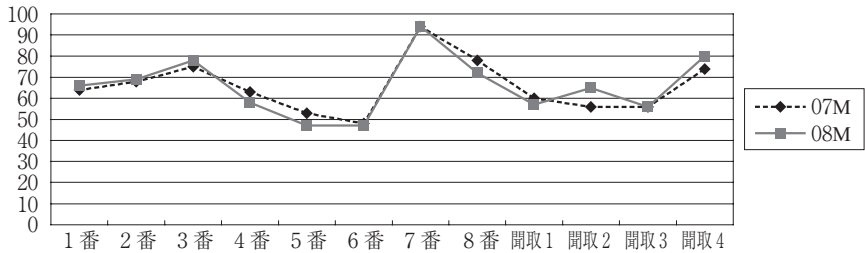
3.2.2.2 4級コース

4級コースについては07, 08年度の2年度分のデータを示すが、以下の表11とその対応グラフ4, 5の要領は5級のものと同様である。ただし対象クラスは、07年度についてはキャリアアップ1(上級科目)クラス、08年度はフランス語4(2)(基礎科目)クラスである。キャリアアップ1は全学部(経済, 経営, 人文, 法, 薬)対象の自由選択科目としての履修者17名のクラスで、フランス語学習歴は均質ではない。フランス語4(2)は人文学部英語英米文学科の2年次生(必修科目として履修)を中心とし、その他の学部からの自由選択科目としての履修者若干名を加えた総勢20名弱のクラスである。

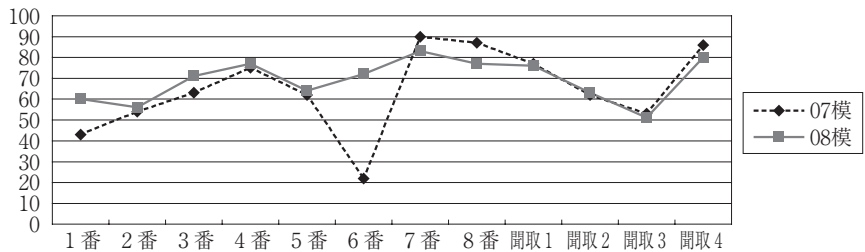
このようにクラスタイプはかなり異なっているにも関わらず、コース受験の方は5級の場合と同じく、両年度ともに同一の正答率を得る結果となった。条件的に5級の場合と異なっているのは、4級問題作成にあたっては仏検実行委員会の許可を得て、過去問題がそのまま利用することができるようになり、聴き取り音声の質やイラストの鮮明度が格段に向上したことである。そのことがコース受験の得点の高さの一要因となったのではないと思われる。模擬試験問題は、07年度については03年春季、08年度については08年秋季の問題を使用した。4級の合格ラインも5級と同じく60点である。

	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	6 番	7 番	8 番	聞取1	聞取2	聞取3	聞取4	合計
07M	64	68	75	63	53	48	94	78	60	56	56	74	65
08M	66	69	78	58	47	47	94	72	57	65	56	80	65
	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	6 番	7 番	8 番	聞取1	聞取2	聞取3	聞取4	
07模	43	54	63	75	62	22	90	87	77	62	53	86	64
08模	60	56	71	77	64	72	83	77	76	63	51	80	70

表 11 仏検 4 級コース受験結果と模擬試験結果



グラフ 4 4 級コース受験結果



グラフ 5 4 級模擬試験受験結果

各問題の内容

- 1 番：冠詞，前置詞と冠詞の縮約形
- 2 番：様々な代名詞
- 3 番：対話完成
- 4 番：動詞活用形
- 5 番：文完成

6 番：前置詞

7 番：短文に該当する絵を選ぶ

8 番：10 行程度の対話文理解

聞き取り 1 番：短文に該当する絵を選ぶ

聞き取り 2 番：応答完成

聞き取り 3 番：数字

聞き取り 4 番：対話理解

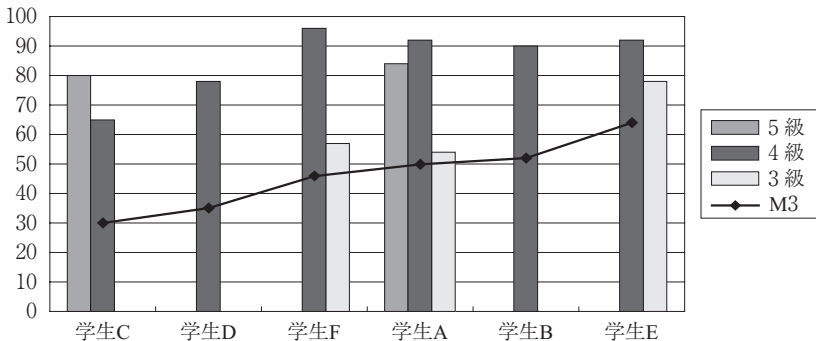
3.2.2.3 3 級コース

仏検 3 級問題の難易度については、以下のデータがその一端を示すように、

受験履歴

	5 級	4 級	3 級	M3
学生 A	08 春季合格 (84)	08 春季合格 (92)	08 秋季不合格 (54)	50
学生 B		08 春季合格 (90)		52
学生 C	08 春季合格 (80)	08 秋季合格 (65)		30
学生 D		08 秋季合格 (78)		35
学生 E		08 春季合格 (92)	08 秋季合格 (78)	64
学生 F		08 春季合格 (96)	08 秋季不合格 (57)	46

表 12 3 級コース受験者の仏検受験歴



グラフ 6 コース受験と仏検実績 (得点比較)

5 級と 4 級間の懸隔を遥かにこえるレベル上昇が認められ、3 級コースをクラス全員に受験させることがためられたので、今年度仏検対策勉強会に参加した(比較的モチベーションの高い)学生 6 名に協力をもとめ、データを採取した。この 6 名の学生達は全員が 2 年次生であり、表 12 のような仏検受験歴を持ち、() 内に示されるような得点を得ている。表中、M3 とあるのは Moodle の 3 級コースの受験成績(2001 年度春季)である。下のグラフ 6 は上記 6 名の学生のコース受験結果(M3)を昇順にならべ、仏検各級における得点結果と比較したものである。

データ採取に参加してくれた学生数が少ないためこれを代表例とすることはできないので、あくまで参考例としての指摘にとどめたいが、4 級合格から 3 級へのアクセスはかなりハードルが高く、4 級で少なくとも 90 点以上を得点できるほどの学力がないと 3 級合格はのぞめない状態にあることが分かる。

3.2.2.4 シラバスと学習到達目標

フランス語上級科目は、半期科目であり、かつ自由選択科目という性質上、履修学生の学習歴、学習到達度が均質ではなくクラス全体としての到達目標をかかげることは難しい。一方、基礎科目のフランス語 1・2 とフランス語 3・4 については通年週 2 コマ授業で必修科目としての履修者が中心であり、学習歴も同じであるので年間を通しての授業計画が立てやすく、シラバス上にもフランス語 1・2 については仏検 5 級レベル、フランス語 3・4 については仏検 4～3 級レベルの学習到達目標が明示されている。このような目標設定は、往々にして「理想」の目標にとどまり、現実の学習結果から乖離したものとなりがちであるが、3.2.2.1 および 3.2.2.2 で見たように 5 級においても 4 級においても模擬試験の平均点が合格基準点の 60 点を十分に越えており、また合格ラインに達した受講生のクラス全体にしめる割合も、5 級で 75%、4 級で 72% という数値を得ていることから、一応妥当な目標設定であると結論づけることができるだろう。但し、3 級レベルの学力達成という目標について

は、3.2.2.3でも触れたように松山大学のフランス語カリキュラム内でどのように位置付け得るか、再検討の必要がある。

3.3 技術的問題点と今後の展望

今回は松山大学 Moodle サイトへのアクセス上のトラブルはなかったが、3級コースにおいて始めて導入した記述問題の作成と、ワード文書を Moodle の編集画面にコピー&ペーストする際に生じた問題について報告するとともに、今後に向けての反省および展望を述べておきたい。

3.3.1 小テスト記述式問題作成上の問題点

既にドイツ語のコース作成者から報告されていたことであるが、Moodle による記述式解答の正解認識が極めて限定的（正解例と完全一致の場合のみ）であるため、解答者がなぜ不正解の判定を受けたのか理解できない場合がある¹³⁾。フランス語コースにおいては、記述形式の小テスト作成が初めての経験であったことと、コース受験をさせた学生が少数であったため問題の発見が遅れることになった。

今回問題になったのは、図 15 に示すように、省略符号（アポストロフ）の後に半角スペースを挿入したため不正解となったもので、通常の筆記試験では何の問題もなく正解となる場合である。

最近では大学生の Mac ユーザーは極めて少ないため、あまり深刻な問題とはならないと考えられるが、Mac の表示画面では、半角スペースの存在の有無がまったく判別できず（図 16, 図 17 参照）、仮に Mac 環境で、このような小テストを実施した場合、混乱は避け得ないであろう。

13) 大浜博, 松尾博史「Moodle による初修言語 CALL について」松山大学『言語文化研究』26-1, 2006年, 21頁を参照のこと。

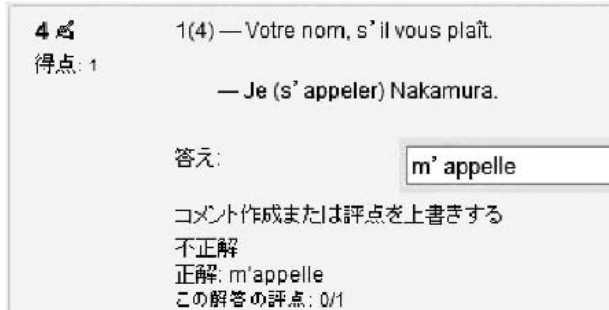


図 15 半角スペース挿入による不正解例 (Windows 画面)

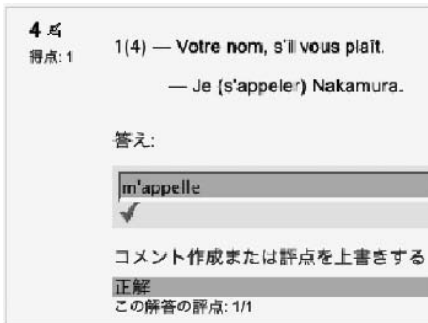


図 16 正解例 (Mac 画面)

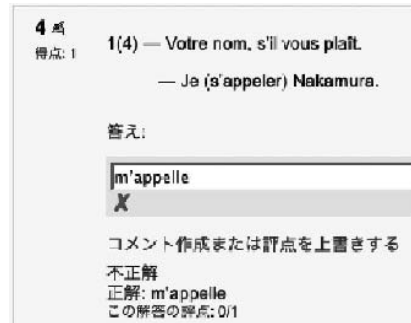


図 17 不正解例 (Mac 画面)

3.3.2 Salut! コース小テストのトラブル

本節で述べるトラブルは、小テストの設問テキストの一部が欠落して表示されるというもので (図 18, 図 19 参照), 欠落が甚だしくて設問内容がまったく理解できない場合もあったが、問題のコースが再履修クラスを対象としたもので、履修者数も少なくアクセス回数も非常に限られていたので問題の存在に気づくのが遅れることになった。発見後すぐに Moodle の管理者業者に問い合わせたところ、これは Word で作成した小テストの設問テキストを、編集ウィンドウ (図 20) にコピー&ペーストする際に挿入されてしまう HTML タグの影響であるとの説明を受けた。このような表示異常の問題はエディターメニュー

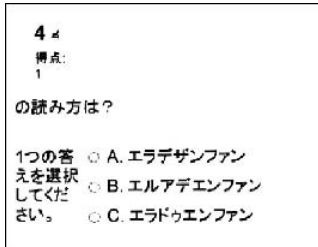


図 18 プレビュー画面 (修正前)

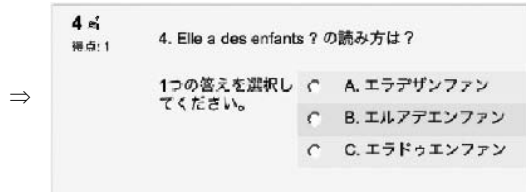


図 19 プレビュー画面 (修正後)

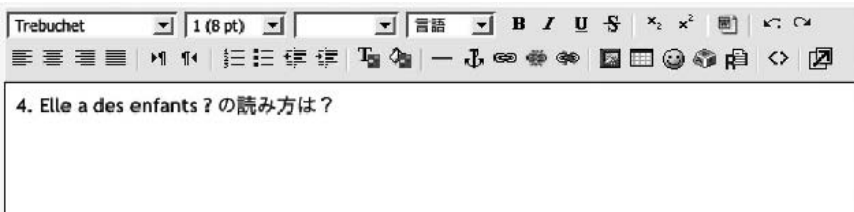


図 20 エディタ画面

ーバーにあるタグ除去ボタンにより解決するとのことであった。しかし、この小テストは昨年度に作成したものであり、既に作成者が担当クラスの受講者に対し試行受験をさせて作動の確認をしているので、その後の Moodle のバージョンアップや、他の何らかの原因の存在も否定できない。

3.3.3 Mac OS における文字化け

Moodle のバージョンアップとともに文字化け現象は殆ど生じなくなってい

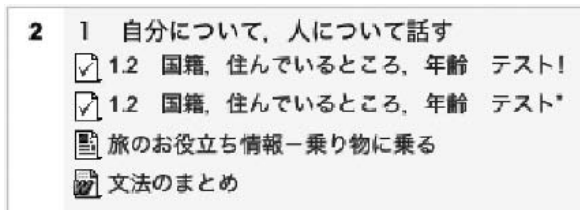


図 21 Mac OS (ブラウザ: Firefox) における文字化け

るが、冒頭(脚注 10)でも触れたように、Mac OS(ブラウザ：Firefox 2.0.0.7)において○つきの修飾数字が正常に表示されなかった。これも Moodle 利用の大勢に影響はないので事実の報告と例示のみにとどめるが、図 21 の通りである。

3.4 Moodle 活用の展望

冒頭のコース編成の章でも触れたが、1 年次配当の基礎クラス向けのコースは、担当者全員が利用できる共通教材を目指したが、教科書が共通であるというだけではこのような CALL 教材を日常の授業の中に組み込むことの難しさが明らかになったようである。以前の報告書でも述べたことであるが、CALL 教材が従来の伝統的な授業の単なる補助教材的なものにとどまるならば、教員自身の CALL 教材へのモチベーションも長期にわたって維持するのは難しい。学期間に 1～2 度アクセスさせるだけの息抜きの副教材ではなく、学習者達が Moodle のコースに参加することによって相互の学習意欲を刺激し合い、学習効果を高められるような、ある程度 Moodle を中心とした授業計画を練ることが必要であろう。コンテンツについても小テスト作成に終始するようであれば、Moodle が本来持っているはずの教育ツールとしての潜在能力を十分に引き出し得ているとは言い難いだろう。従って今後は、各担当者がこの基礎クラス用のコースをスタート地点にまで立ち戻って再検討し、自己の授業計画の中に位置付けながら、改良の可能性を各自で模索することが望ましい。

一方、検定試験対策の仏検コースについては、これまでの利用状況や利用結果からみて、ある程度効果的な自習教材として有効活用される道が開けつつある。従って現存の 3 コースについては維持管理を続行し、対象学生には今まで以上の自主的なコース参加を促したい。さらに、仏検準 2 級も松山大学の学生にとって射程範囲に入るレベルなので、新たにコースの開設を検討したい。

(大浜博)

4. お わ り に

松山大学教育研究助成を受けて、「松山大学 Moodle」は2006年度から3年間運用してきたが、その間、MoodleとCALLについてさまざまな経験を積むことができた。2008年度からは、松山大学内のサーバでMoodleが試験運用され、経済学部、薬学部を中心に多くのコースが提供されるようになった。2008年度末での教育研究助成の終了を機に、「松山大学 Moodle」で運用していたコースは全てこの「松山大学科目ポータル」¹⁴⁾に移行し、運用していく予定である。フランス語については上記のように仏検準2級対策コースの開設が検討されており、ドイツ語についてはドイツ語リーディングの対面授業と連動したコースを新たに開設する予定である。今後、ドイツ語、フランス語以外の初修外国語でMoodle上のCALLが提供されるようになるかも含めて、今後のCALLの展開は教育活動援助のための大学レベルでのFD活動と密接に関係することを指摘して筆をおくこととする¹⁵⁾ (松尾博史)

14) <http://mdl01.matsuyama-u.ac.jp/>

15) 小論は2008年度松山大学教育研究助成金による成果の一部である。